

困難を乗り越え、交流は次のステージへ!

熊本県立天草高等学校 主幹教諭

釜賀 健司

1. MERS を乗り越えて交流が始まる

「情報氾濫するこの時代、生徒には真実を見極め、風評を乗り越えて生きていてもらいたい。MERS については総合的に判断すると大丈夫。予定どおり訪問しよう」2015 年夏、過熱する報道の中、多角的に情報分析された校長、副校長、教頭のこの判断から、土坪(トピョン)高校との真の交流が始まった。現在も両校はこの思いを大切にしている。

ただ、この交流には前段がある。2014 年秋、JENESYS による韓国高校生訪問団を本校で受け入れた際、団長だった土坪高校の李敬容(イ・ギョンヨン)校長が本校の雰囲気と生徒に大変感激され、姉妹校交流を申し入れられたところにさかのぼる。それから数えれば実質 3 年目となる。

2. 現在の交流の概要

初年度は 7 月に前田校長を団長とし、生徒 10 名で訪韓した。生徒も教師も大歓迎を受けた。現地では大きな学校行事である「Pop Song Contest」に参加し、ダンス披露や、授業交流も行った。パートナーと相互ホームステイを行い「家族ぐるみ」の交流も深まった。

10 月には李敬容校長を団長とする生徒 10 名が本校を訪問。日本の自然や文化に興奮し、パートナーとの感激の再会も果たした。この期間は本校文化祭中であり、土坪高校生もプレゼン、ダンスを発表したほか、吹奏楽部のステージに李敬容校長が登場し、「マイウェイ」を熱唱。拍手喝采であった。憧れのイルカウォッチングや真珠の玉出し体験等も行った。



天草高校文化祭において全校生徒の前で「日韓卓球交流」を披露し、握手する前田校長と、土坪(トピョン)高校 崔渥基(チェ・ジョンギ)教頭

3. 熊本地震を乗り越えて

本年度もさらに交流が深まるように…と募集を始めた矢先の 4 月、熊本地震が発生した。幸い天草地域の被害は少なかったが、土坪高校から真っ先にお見舞いをいただき、大変感激したことを覚えている。熊本空港は大きな被害を受け、熊本～ソウ

ル便も運休。このような状況の中、土坪高校の生徒は天草に来てくれるのだろうか…と心配したが、昨年同様の人数で今年度も交流を行った。航空便を福岡～ソウルに変更し、7 月に馬場副校長を団長とする訪問団が無事訪韓し、交流を深めた。10 月には崔渥基(チェ・ジョンギ)教頭を団長とする土坪高校生の訪問団を受け入れたが、今回はさらに交流のすそ野を広げたいとの思いから、歓迎式典で吹奏楽部のアトラクション演奏を取り入れたり、文化祭展示の一環で「土坪高校交流の部屋」を新設したり、ホームステイパートナー以外の生徒との交流会を実施するなど、限られた時間の中で一般生徒や地域の方々を意識した取組を工夫し、好評を得ることができた。



土坪高校での記念撮影

4. 交流は次のステージへ

姉妹校交流も 3 年目を迎える。新たな試みとしてこれまでの交流に加え、長期休業中に両高校生が一緒に学習し、交流する「研究合宿」を開催し、学術交流の第一歩を踏み出したいと考えている。さらに、2015 年訪問した土坪高校生が再び個人的に来天し、パートナーと再会し、本校も訪問するといううれしい出来事もあった。今年度は本校卒業生が再び訪韓するという。

MERS、熊本地震を乗り越え、絆は深まり、交流も次のステップに進もうとしている。これは日韓文化交流基金をはじめとする様々な皆様方の御支援の賜物でもある。私自身もこの 2 年間、交流事業のお手伝いをする中で素晴らしい出会いやチャレンジの機会を頂いている。これからも交流をとおして日韓の高校生が「玄界灘に立つ虹」となり、世界に飛躍していくことを願っている。

PROFILE

釜賀 健司(かまが けんし)

2015 年に天草高等学校に赴任。現在 2 年目。国際交流の担当主幹として計画立案や連絡調整に携わっている。

